

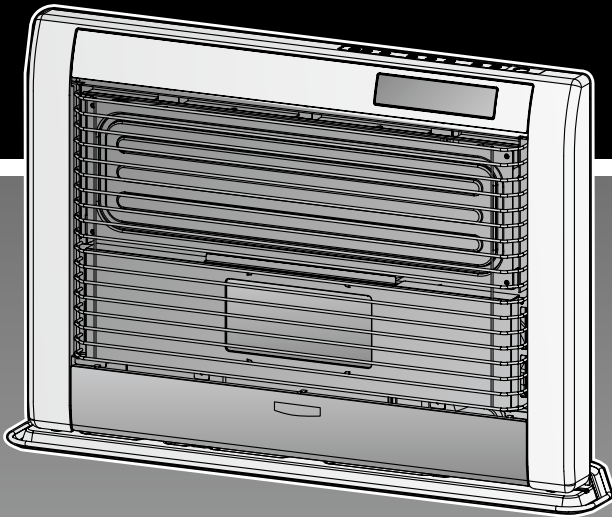
CORONA

密閉式石油ストーブ 取扱説明書

お客様へ
本製品は消費生活用製品安全法（消安法）で指定される特定保守製品です。
法定点検を受けるために所有者登録を行ってください。
（製品に同梱した「所有者票」に記入し投函願います。）

〈保証書付〉保証書は裏表紙に印刷されています。

正しく使って上手に節約



型式 **FF-AG6820H** **FF式輻射**

もくじ

このたびは、コロナ石油ストーブをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

アグレシオ オーナーズサイト

型式：FF-AG6820H

QRコードを読み取ると取扱説明書の閲覧や所有者登録、修理受付などにアクセスできます。



警告

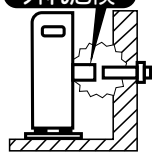


ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油
KEROSENE ONLY

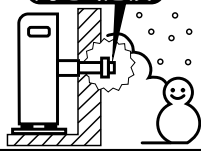
警告

給排気筒を必ず点検してください

外れ危険



閉そく危険



| | ページ |
|---|-------|
| 1.特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)…… | 1～4 |
| * 灯油の廃棄について …………… | 4 |
| 2.使用する場所 …………… | 4 |
| 3.各部の名称 …………… | 5～6 |
| ● 外観図・構造図 …………… | 5 |
| ● 表示部・操作部の名称と働き …………… | 6 |
| 4.使用前の準備 …………… | 7～8 |
| ● 燃料 …………… | 7 |
| ● 給油 …………… | 7 |
| ● 運転開始前の準備と確認 …………… | 8 |
| 5.使用方法(使い方) …………… | 9～16 |
| ● 運転開始(点火)・運転停止(消火) …………… | 9 |
| ● 室温の調節 …………… | 9～10 |
| ● eco(エコ)運転 …………… | 11 |
| ● クイック微少運転 …………… | 12 |
| ● 現在時刻の合わせ方 …………… | 12 |
| ● タイマーの使用法 …………… | 13 |
| ● 運転停止中も時計を表示させたいとき …………… | 14 |
| ● eco(エコ)ガイド …………… | 14 |
| ● 使用上の注意 …………… | 15 |
| ● 自己診断モニタについて …………… | 16 |
| 6.安全装置 …………… | 17 |
| 7.その他の装置 …………… | 18 |
| 8.日常の点検・手入れ …………… | 19～21 |
| 9.定期点検 …………… | 21 |
| 10.部品交換のしかた …………… | 22 |
| 11.保管(長期間使用しない場合) …………… | 22 |
| 12.故障・異常の見分け方と処置方法 …………… | 23～24 |
| 13.仕様 …………… | 25～26 |
| 14.アフターサービス …………… | 26 |
| 15.据付け・移設 …………… | 27～29 |
| ■ お客様ご相談窓口 …………… | 30 |
| ■ 保証書 …………… | 裏表紙 |

1. 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性または火災の可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

| | |
|--|-------------------------------|
| | このマークは、「注意」していただく内容です。 |
| | このマークは、してはけない「禁止」を表しています。 |
| | |
| | このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。 |
| | |
| | このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。 |
| | |

警告 (WARNING)

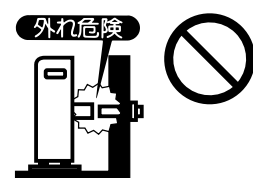
ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも火災の原因になります。



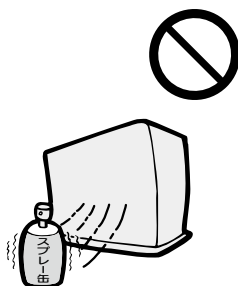
給排気筒 (管、ホース) 外れ危険

給排気筒(管、ホース)が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットコンロ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



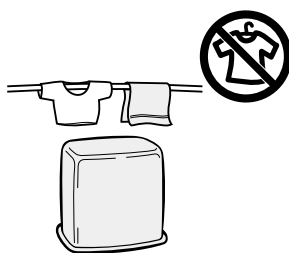
給排気筒トップには金網などは付けない

給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けないでください。給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があります危険です。



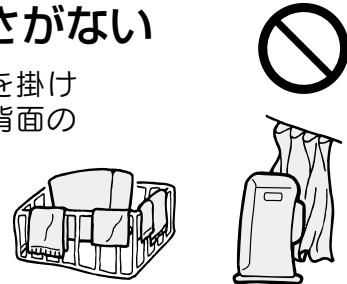
衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて、落下して火がつき、火災の原因になります。



温風吹出口をふさがない

ストーブの前に干し物を掛けたり、カーテンなどで背面の空気取入口がふさがれると、本体が過熱して、操作部が変形したりやけどや故障・破損するなど大変危険です。



給排気筒トップ閉そく危険

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。



可燃物近接厳禁

カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据付け例 (27ページ) を参照してください。

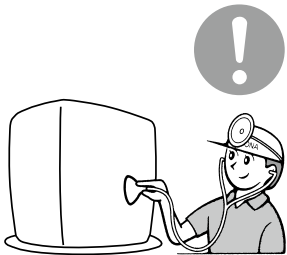


1. 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

警告(WARNING)

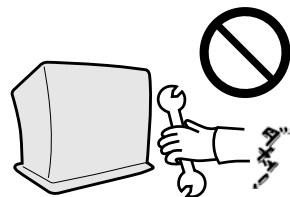
定期点検の実施

定期的(2年に1回程度)に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者のいる店に依頼してください。



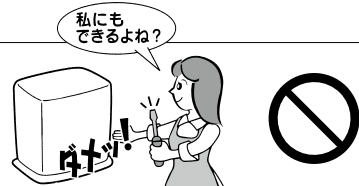
改造使用の禁止

改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けしないでください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。安全装置の無効化など機器の安全性を損なう改造は火災など思わぬ事故の原因になります。



ご自身での据付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。(ストーブを移設させる場合も同じです。)



注意(CAUTION)

給油時消火

火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。



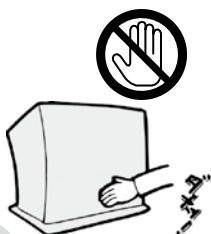
油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部(ストーブ前面や枠上部前面など)、給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。



●小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。

ゴム製送油管の点検・交換

ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

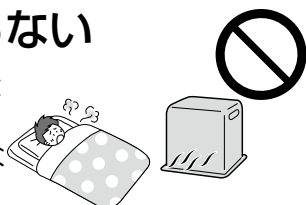
腰をかけたたり物をのせない

ストーブの上ののったり、腰をかけたりにしないでください。ストーブの故障ややけどのおそれがあります。ストーブの上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。



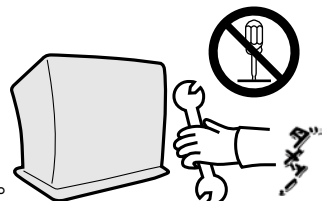
異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の色、エラーを繰り返すなど異常や故障と思われるときは使用しないでください。事故の原因になります。「故障・異常の見分け方と処置方法」にしたがって処置してください。



分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。不完全な修理は、危険です。

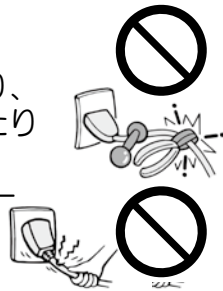


1. 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠ 注意 (CAUTION)

電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷つけたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。



灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



フィルタを外しての運転禁止

対流用送風機のフィルタを外した状態で運転すると、カーテンなどを巻きこんで火災になるおそれがあります。また手などふれるとけがをするおそれがあります。



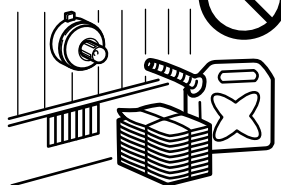
電源の接続

電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。



給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。



特殊用途には使用しない

食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。



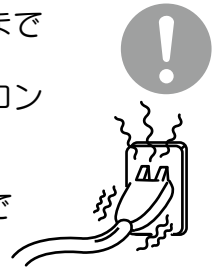
外出する時は消火

外出のときは、必ず運転を停止し消火してください。



電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。



ほこりの除去

フィルタは、週1回以上必ず掃除してください。ごみ・ほこりなどでフィルタがつまると、送風力が弱くなり、排気温度上昇やストーブの表面温度が上昇する原因になります。



電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



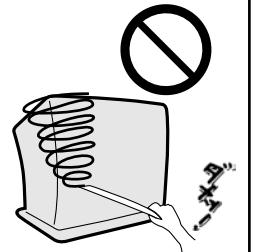
不良灯油使用禁止

変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。



指や異物を入れない

温風吹出口や空気取入口に指や異物を入れないでください。けがや火災のおそれがあります。



初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合がございますので、この間は、部屋に入れないでください。



1. 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

お願い(NOTICE)

機器を廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜き取ってください。
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。
必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

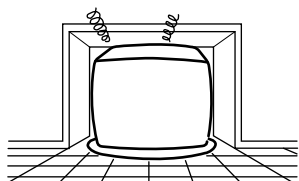
灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買いあげになった販売店にご相談ください。

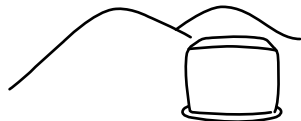
2. 使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

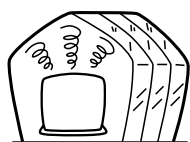
安全に使用するために



●マントルピースなどに据付ける場合は、標準据付け例にしたがってください。(27ページ参照)



●標高が1500m以上の場所では使用しないでください。
標高100~1500m未満で使用される場合は調整が必要です。(詳しくは、工事説明書(高地または延長給排気で使用の場合)をご覧ください。)



●クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。化学薬品などの影響により、異常燃焼や故障の原因になります。

●乾燥室、温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。

●水平でない場所、不安定な場所では使用しないでください。

●不安定な物をのせた棚などの下には使用しないでください。

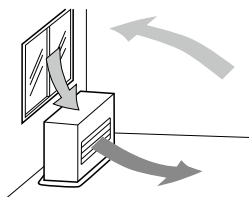
●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所には使用しないでください。

●階段、避難口などの付近で、避難に支障となる場所には使用しないでください。

効果的に使用するために

窓の下や壁面に設置

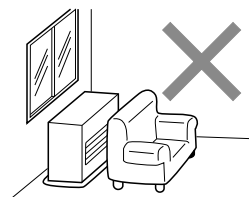
●外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので効果的です。



ご注意 ストーブの前面に障害物を置かないでください。

●障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、本体の温度が上昇して危険です。

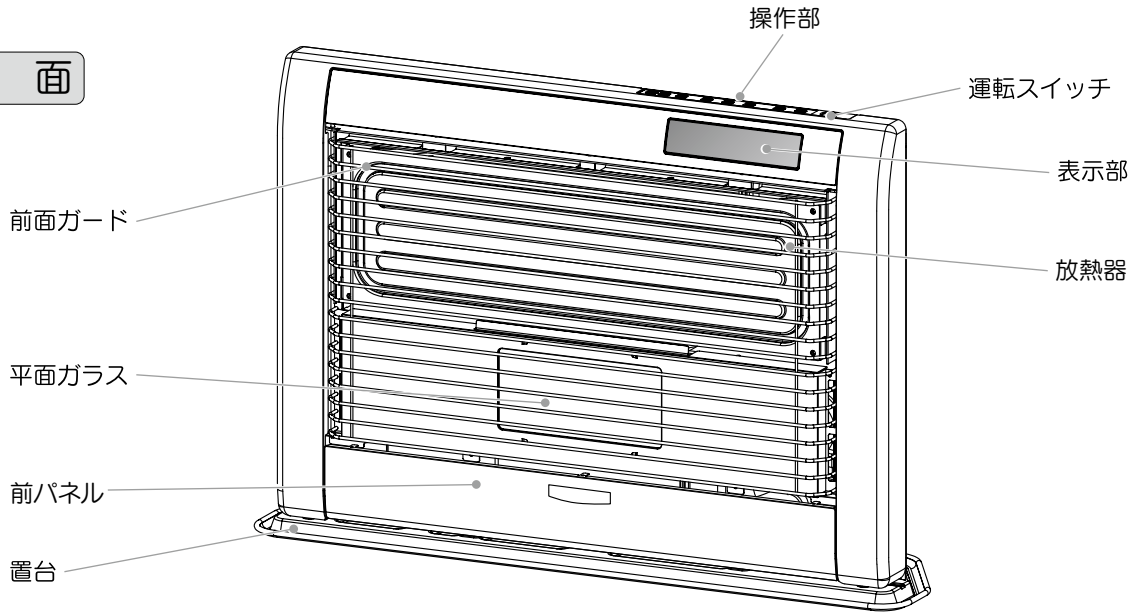
●ストーブの前面の空間を広くとれる場所を選んでください。



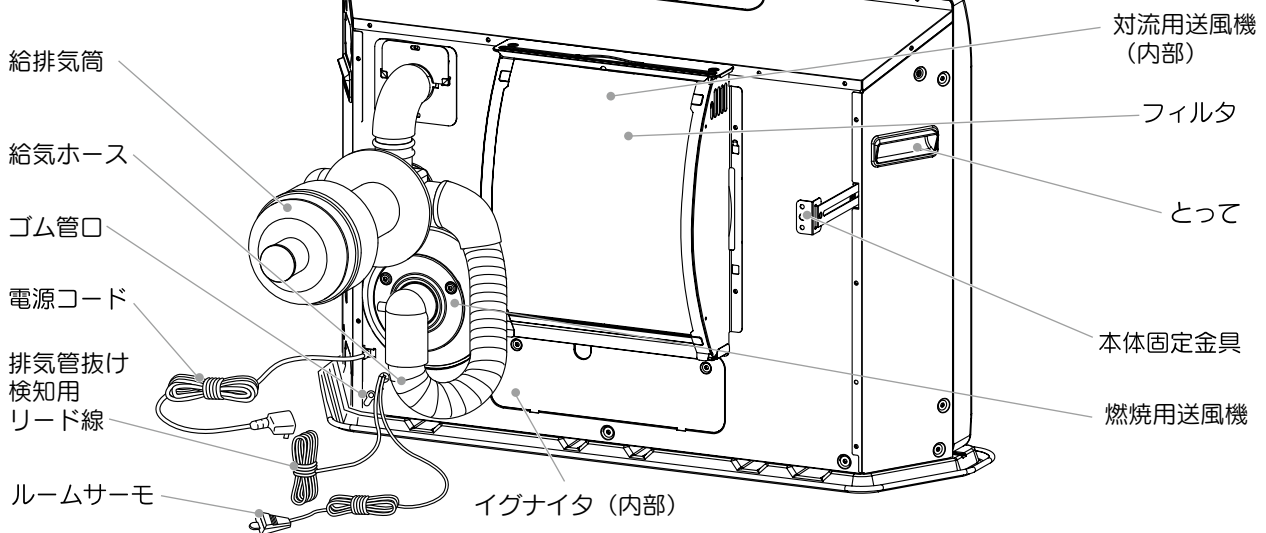
3.各部の名称

外観図

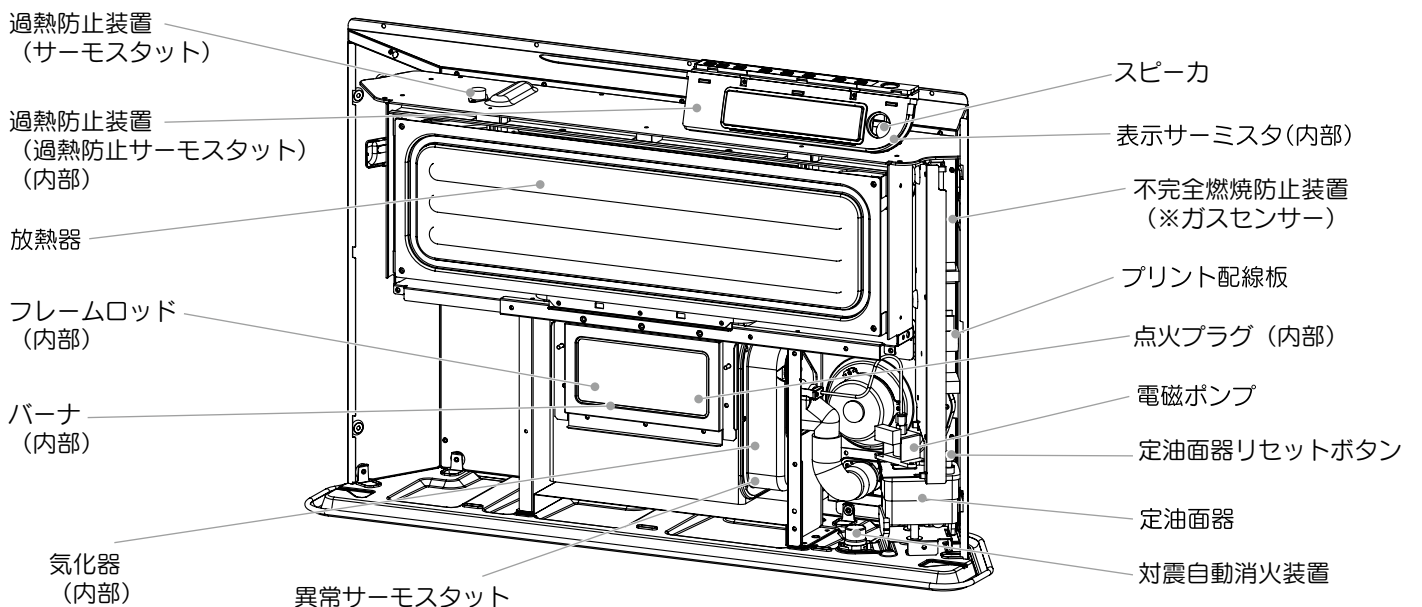
正面



背面



構造図

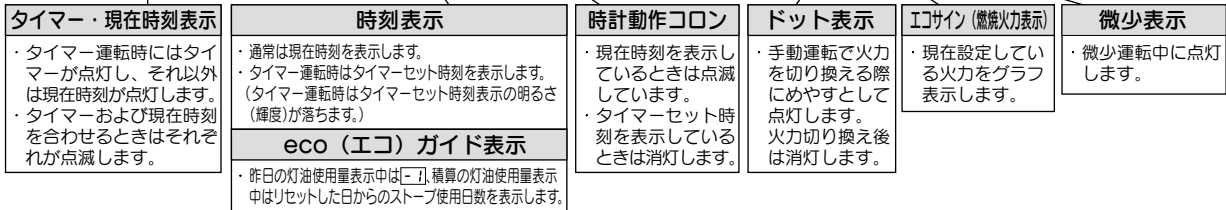


※運転中は、ガスセンサーが発光・点滅するため、隙間から光が見えることがあります。

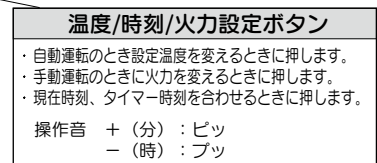
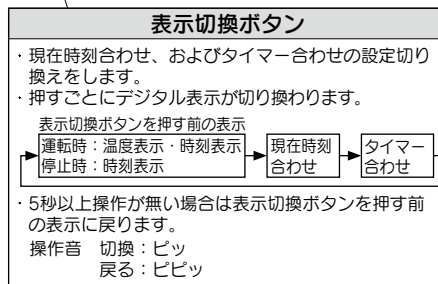
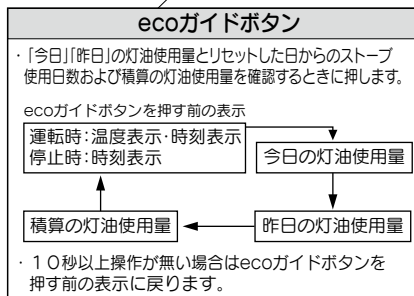
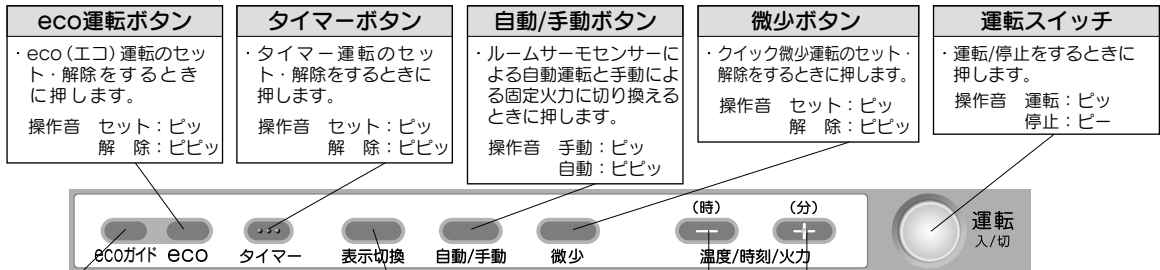
表示部・操作部の名称と働き

★イラストは説明のため全部表示した状態にしてあります。

表示部



操作部



■運転停止中は表示はすべて消灯します。

- 現在時刻を確認したい時は、操作ボタンのいずれかを押してください。現在時刻を1分間表示します。
- 運転停止中も現在時刻を表示させることができます。
 - ・表示切換ボタンを押しながら、温度設定ボタン「+」を押してください。1分以上経過しても時刻表示が消灯しないことを確認してください。
 - ・もとに戻りたい場合は、同じように表示切換ボタンを押しながら温度設定ボタン「+」を押してください。

■表示部の明るさ調節

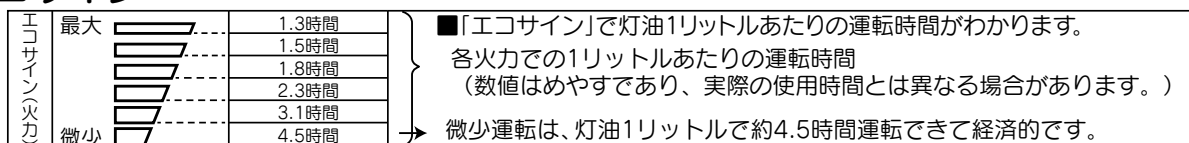
- 温度設定ボタン「+」を押しながら「-」を押すことにより、表示部の明るさを調節することができます。

■タイマー運転中は表示がすべて暗くなります。

■「音声お知らせ」の内容と消音方法

- 通常の運転操作(「点火」・「消火」・「タイマーセット」)を行うとき、音声(「点火します」・「消火します」・「タイマーセットしました」)で操作状態をお知らせします。
- eco運転ボタンを押しながら温度設定ボタン「+」を押すことにより、「音声お知らせ」を消音することが出来ます。

■エコサイン



お願い

- はじめてお使いになる前に
輸送時の傷を防止するために、表示部・操作部には保護フィルムが貼ってあります。ご使用時に取り除いてください。コーナー部分にセロハンテープを貼り付けて、一緒にはがすとより簡単に取り除けます。(保護フィルムは、ストーブの設置工事の際にははがしてある場合があります。)

4. 使用前の準備

燃 料

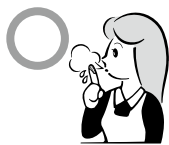
燃料は必ず灯油(JIS 1 号灯油)を使用してください。

- 警告** ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- 注意** 不良灯油(変質灯油、不純灯油)は、絶対に使用しないでください。点火・消火しにくくなったり、燃焼が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。
- 注意** 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒には保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。(火の気のない所で行ってください。)



灯油はぬれたまま



ガソリンはすぐ乾く

不良灯油(変質灯油・不純灯油)とは…

昨シーズンより持ち越しの灯油



日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかも混入した灯油



- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すばいにおいがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■ 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、ストーブの故障の原因になります。

- 油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
- 水やごみが送油経路に流れこみ、油漏れや燃焼不良・着火不良の原因になります。

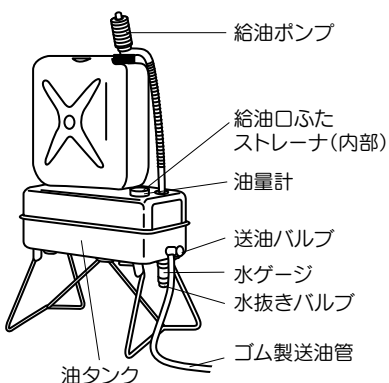
■ 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用したときは…

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

- ご注意** ● 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買いあげの販売店にご相談ください。

給 油

給油の際の手順と注意



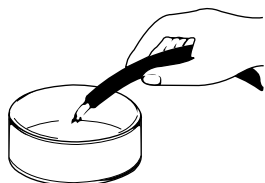
注意 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

- 送油バルブを閉じて給油口ふたを外し市販の給油ポンプで給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。給油後は、給油口にあるストレーナを取り出して、水やごみがたまっていたら掃除してください。
- ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。
- 給油の際は、水・ごみなどを入れないように注意してください。水・ごみなどは燃料不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
- 給油口ふたは、確実に締めてください。
- こぼれた灯油はよく拭き取ってください。

燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

油タンクを空にすると、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。



1. 送油バルブを閉じて、油タンクに給油します。
2. ストーブのゴム管口からゴム製送油管を外します。
3. 送油バルブを開け、ゴム製送油管から灯油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。(灯油がこぼれないように容器を用意してください。)

運転開始前の準備と確認

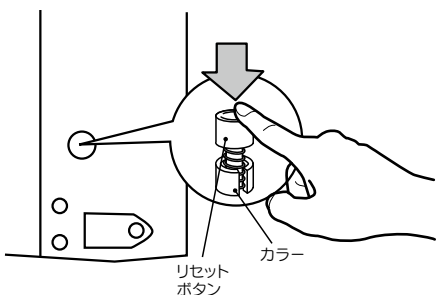
■ 前面ガード取付けの確認

- 初めて使用するとき、同梱の前面ガードが必ず取り付けられている事を確認してください。
- ストーブ前面は高温となり、やけどのおそれがあります。必ず取り付けてください。
- 取り付けられていない場合は（28ページ）前面ガードの取付方法を参照して必ず取り付けてください。

■ 安全装置のセット、取扱い上の注意

定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、右側面の穴から見える定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押し下げてください。



ご注意

- リセットボタンは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一、点火操作後灯油が出ずに自己診断モニタ [E1] または [E2] が表示されるような場合はリセットボタンを押ししてください。（安全弁が外れ、灯油がスムーズに流れます。）
- リセットボタンは乱暴に扱ったり、5秒以上押したままの状態や何回も押し下げないでください。定油面器から灯油があふれたりすることがあります。
- カラーは絶対に外さないでください。

■ 送油経路の油漏れの確認

⚠注意 油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上で使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

- 油漏れのあるときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてからお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

■ 電気配線の確認

⚠注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…

- 電源は必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードを使用しないでください。
- 他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

5.使用方法（使い方）

運転開始（点火）・運転停止（消火）

点火順序



運転スイッチを押して「入」にしてください。

- “点火します”の音声と同時に「運転中」表示が点滅します。
- 予熱が完了すると点火し、「運転中」表示が点灯に変わり温風が出ます。

- 着火時、放電音と同時に着火音を発することがありますが、異常ではありません。
- 点火操作から放電（着火）まで約2分です。（室温によっては点火までの時間が変わることがあります。）
- 着火後しばらくしてから温風が出始めます。
- 1回で着火しない（放電音が繰り返し鳴る）ことがありますが、異常ではありません。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが、異常ではありません。

消火順序



運転スイッチを押して「切」にしてください。

- “消火します”の音声と同時に「運転中」表示が消灯します。
- 消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機・対流用送風機が停止します。送風が止まるまで電源プラグを抜かないでください。

注意 2日以上家をあけるなど長期間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
- 運転中は電源プラグを抜いて消火させないでください。ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 運転停止後、燃焼室が冷却（表示が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが、異常ではありません。

ご注意

- 消火冷却後、バーナ（燃焼部）内の汚れをとるための『バーナクリーニング機能』が働きます。『バーナクリーニング機能』は、自動でバーナ内の温度を上げて気化器内の汚れをとる機能です。そのため約10分間の送風を行った後、リレー音の「カチッ」や燃焼用送風機から「ブーン」という音が約5分間しますが、『バーナクリーニング機能』のため異常ではありません。

室温の調節

自動運転の場合

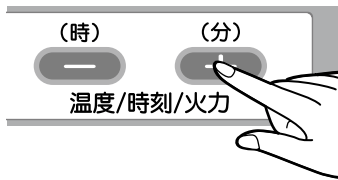
ルームサーモにより、設定温度に応じて自動的に火力調節を行います。設定温度は10℃～30℃の間で設定できます。次のように設定してください。



自動/手動ボタンを押して「自動」表示にします。

- “自動に変更しました”の音声と同時に表示部に設定温度と室内温度が表示されます。

5.使用方法（使い方）



室温の調節 を行ってください。

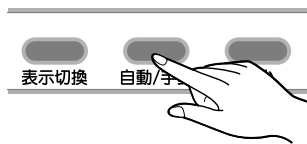
- 温度設定ボタン「+」を押すと1℃上がります。(上限30℃)
- 温度設定ボタン「-」を押すと1℃下がります。(下限10℃)
設定温度を変更すると“□□℃に変更しました”と音声でお知らせします。

ご注意

- ルームサーモはできるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。
- ストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも表示部の室内温度と室温とが一致しない場合があります。このような場合は、ストーブの上やストーブの熱の受けやすい場所、または直射日光や冷気の当たる場所を避け、できるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。
- 比較的暖かい時期など、設定温度より室温が上がりすぎるときにはeco(エコ)運転をご使用ください。ecoセーブ運転によって、消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。(11ページ eco (エコ) 運転の項参照。)
- 設定温度を設定するとその設定を記憶しますので、設定温度を変更しない限り、同一の設定温度になります。

■「手動運転」の場合

固定火力運転による火力調節が可能です。火力は6段階に調節でき、表示部にエコサインが表示されます。次のようにご希望の火力に調節してください。



自動/手動ボタンを押して「手動」表示にします。

- “手動に変更しました”の音声と同時に表示部に室内温度、エコサイン（燃焼火力表示）が表示されます。



火力の調節 を行ってください。

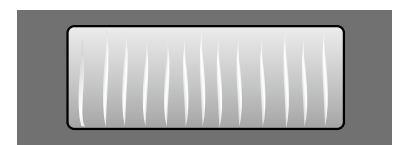
- 火力設定ボタン「+」を押すと1火力上がります。(上限 6)
- 火力設定ボタン「-」を押すと1火力下がります。(下限 1)



■炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。

- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎が混じっても異常ではありません。



青い炎の中に黄色い炎が混じる

- 細かい（霧状の）水滴やホコリを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。



全体的にオレンジの炎（元は青色の炎）

5.使用方法（使い方）

eco（エコ）運転

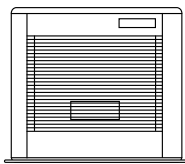
自動運転時にeco運転ボタンを押すとご希望の設定温度に切り換わり、セーブ消火とecoセーブ運転でムダな暖めすぎをおさえ、経済的で快適な温度を保ちます。
また、自動運転時は最大火力を70～90%、手動運転時は最大火力を80～90%におさえてお部屋を暖めすぎないように運転します。

自動運転時 [設定温度20℃の場合]



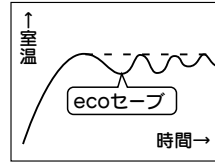
eco運転ボタンを押すと設定温度が20℃に切り換わります

●eco（エコ）運転



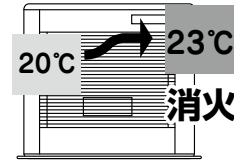
最大火力を70～90%におさえて室内を暖房します。

●ecoセーブ運転



ムダな暖めすぎをおさえ、快適な室温を保ちます。

●セーブ消火



室温が設定温度より約3℃上昇すると消火し、設定温度以下になると再点火します。

※設定温度の初期設定は20℃です。設定温度は、温度設定ボタンで10～30℃に変更できます。

- 室温が20℃未満で30分以上運転した場合は、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が20℃以上の場合、最大火力を80%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、（設定温度を22℃以上に設定）最大火力を70%におさえて運転します。

手動運転時

- 室温が20℃以上の場合、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、最大火力を80%におさえて運転します。火力表示は最大のままです

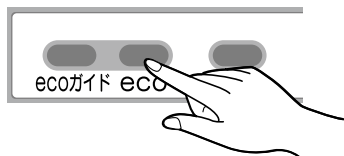
■eco（エコ）運転方法



eco運転ボタンを押してください。

- “eco（エコ）運転をセットしました”の音声と同時に「eco」表示が点灯し、eco（エコ）運転に入ります。
- 手動運転の場合は最大火力時にeco（エコ）運転がはたらきます。

■eco（エコ）運転の解除



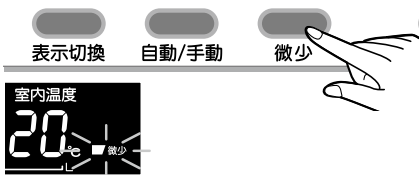
再度、eco運転ボタンを押してください。

- “eco（エコ）運転を解除しました”の音声と同時に「eco」表示が消灯し、eco（エコ）運転を解除します。
- eco（エコ）運転を解除するとeco（エコ）運転前の設定にもどります。

クイック微少運転

- 運転中に微少ボタンを押すと、ワンタッチで最小火力になり、部屋の暖めすぎを防止します。

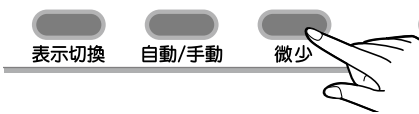
クイック微少運転方法



微少ボタンを押してください。

- “微少をセットしました”の音声と同時に「微少」表示が点灯し、火力が最小火力に設定されクイック微少運転に入ります。

クイック微少運転の解除方法



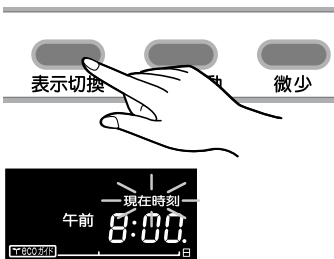
再度、微少ボタンを押してください。

- “微少を解除しました”の音声と同時に「微少」表示が消灯し、クイック微少運転を解除します。
- クイック微少運転を解除するとクイック微少運転前の設定に戻ります。

現在時刻の合わせ方

現在時刻は工場出荷時に合わせてありますが、多少ずれることがあります。時刻がずれている時は、次の手順で合わせてください。

- 表示切換ボタンを押して「現在時刻」表示にします。
現在の設定時刻が表示され「現在時刻」表示が点滅します。
- 時刻設定ボタン（時）（分）を押して現在時刻を合わせます。
1回押すと（時）は1時間、（分）は1分進みます。
押し続けると表示は連続して変わります。
（時刻設定は「現在時刻」が点滅中に設定できます。点滅が終了した場合は、再度表示切換ボタンを押して設定してください。）
- 時刻合わせを行い表示切換ボタンを押したとき、または5秒間操作がなく「現在時刻」表示が消灯したときに時計動作を開始します。

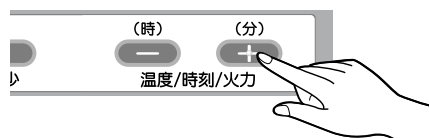


例：午前6時15分に合わせる場合

- （時）ボタンを押して“午前6：00”にします。



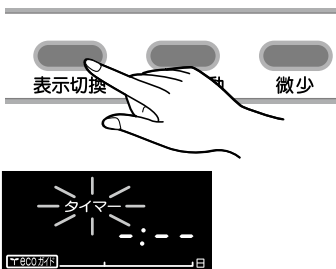
- （分）ボタンを押して“午前6：15”にします。



5. 使用方法（使い方）

タイマーの使用法

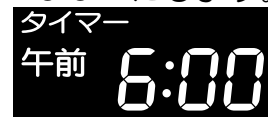
■タイマー時刻の合わせ方



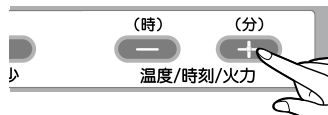
- 表示切換ボタンを押して「タイマー」表示にします。
現在のタイマー時刻または-:--が表示され「タイマー」が点滅します。
- (時)・(分)ボタンを押してタイマーセット時刻を合わせます。
1回押すと(時)は1時間、(分)は5分進みます。
押し続けると表示は連続して変わります。
(タイマー時刻設定は「タイマー」が点滅中に設定できます。点滅が終了した場合は、再度表示切換ボタンを押して設定してください。)
- 表示切換ボタンを押してください。

例：午前6時30分に合わせる場合

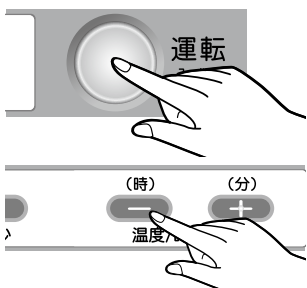
- (時)ボタンを押して“午前6:00”にします。



- (分)ボタンを押して“午前6:30”にします。



■タイマー運転方法

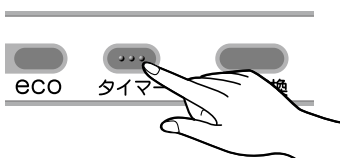


タイマー時刻が設定されていないと、タイマー運転はできません。

- 運転スイッチを押して「入」にしてください。
(運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。)
- 運転するときのご希望の温度設定または、火力設定に合わせてください。
- タイマーボタンを押してください。
 - “タイマーをセットしました”の音声と同時にタイマー表示とタイマーセット時刻が表示され、タイマー運転に入ります。
(運転中の場合は消火動作に入ります。)
- タイマーセット時刻になると運転を開始します。

- 外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。
- タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
- タイマー運転中はタイマーセット時刻表示の明るさ（輝度）が落ちます。
- タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示されます。
- タイマー運転設定後に停電（30秒以上）があった場合や、対震自動消火装置が作動した時は、タイマー運転が解除され、点火しません。

■タイマー運転の解除



- 再度、タイマーボタンを押してください。
- “タイマーを解除しました”の音声と同時にタイマー表示が消灯し、現在の設定時刻が表示され（「運転中」点滅）、自動的に運転を開始します。
- 運転を停止する場合は、運転スイッチを「切」にしてください。


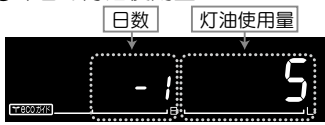

運転停止中も時計を表示させたいとき

運転停止中に表示はすべて消灯しますが、下記の方法により現在時刻を表示させることができます。

- 表示切換ボタンを押しながら、時刻設定ボタン（分）を押します。
1分以上経っても時計表示が消灯しないことを確認してください。
- もとに戻したい場合は、同じように表示切換ボタンを押しながら時刻設定ボタン（分）を押してください。

eco(エコ)ガイド

「今日」「昨日」の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量を表示します。ecoガイドボタンを押すと表示部がecoガイドの表示に切り換わり、ボタンを押すごとに表示部が次のように切り換わります。

| ●今日の灯油使用量 | ●昨日の灯油使用量 | ●積算の灯油使用量 |
|--|---|---|
|  <p>灯油使用量</p> |  <p>日数 灯油使用量</p> |  <p>日数 灯油使用量</p> |
| <p>今日の現在までの灯油使用量を表示します。 (午前0時から現在までの灯油使用量を表示します。)</p> | <p>昨日1日の灯油使用量を表示します。 (午前0時から24時間の灯油使用量を表示します。) ※日数表示部に-1を表示します。</p> | <p>ストーブの使用日数と積算の灯油使用量を表示します。 (ストーブの使用日数は午前0時に更新します。)</p> |

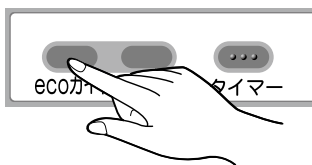
- 灯油使用量は1L単位で表示します。
※灯油使用量は小数点以下を四捨五入した数値を表示します。

ご注意

- 現在時刻が合っていない場合、灯油使用量や使用日数が正しい値を表示しません。
「現在時刻の合わせ方」(12ページ)を参照し、時刻合わせを行ってください。
- 停電(30秒以上)があった場合は、今日の灯油使用量が「0」になります。
ただし昨日の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量は記憶されます。
- 表示する灯油使用量はめやすです。使用状況によって実際の灯油使用量と異なる場合があります。

eco(エコ)ガイドの表示方法

ecoガイドボタンを押すごとに表示が切り換わります。



今日の灯油使用量を確認する場合

- ecoガイドボタンを押してください。(1回)
- “今日の使用量です”の音声と同時に今日の灯油使用量を表示します。

昨日の灯油使用量を確認する場合

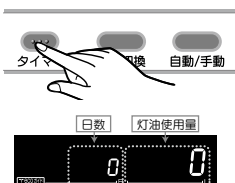
- ecoガイドボタンを押してください。(2回)
- “昨日の使用量です”の音声と同時に昨日の灯油使用量を表示します。

積算の灯油使用量を確認する場合

- ecoガイドボタンを押してください。(3回)
- “積算の使用量です”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量を表示します。

- eco(エコ)ガイド表示中に10秒間操作がない場合、通常表示に戻ります。
- eco(エコ)ガイド表示中にタイマー運転は使用できません。
- ストーブ使用日数の上限は「1999」日です。それ以上は使用日数が増えません。
必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。
- 積算の灯油使用量の上限は「9999」Lです。それ以上は使用量が積算されません。
必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。

積算の灯油使用量のリセット方法



- 積算の灯油使用量を表示している状態で「タイマーボタン」を3秒以上押してください。
- “積算をリセットしました”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量をリセットし表示が「0」になります。

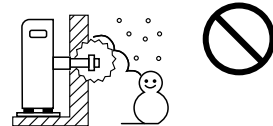
5.使用方法（使い方）

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください」の他に、次の項目についても注意してください。

⚠警告 ●給排気筒トップ閉そく危険

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。
ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



⚠注意 ●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部（ストーブ前面や枠上部前面など）給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。
小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。



⚠注意 ●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。



ストーブ周囲の注意

- ストーブ下面や、ふく射熱が強いストーブ前面付近などには、熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。変色や変形したりすることがあります。
- 加湿器を使用している部屋など湿気やほこりの多い場所で使用すると表示部の内部がくもる場合があります。

前面ガードを外したまま運転しない

- 前面ガードを外したまま使用しないでください。誤って放熱器や平面ガラスなどの高温部にふれるとやけどをします。

平面ガラスには水をかけない

- 平面ガラスには水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。

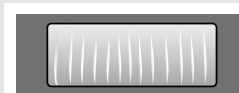
雷発生時は電源プラグを抜く

- 雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置がストーブを保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷する恐れがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。

- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎が混じっても異常ではありません。
- 細かい（霧状の）水滴やホコリを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。



青い炎の中に黄色い炎が混じる



全体的にオレンジの炎（元は青色の炎）

自己診断モニタについて

故障・異常が発生すると状態が表示部に記号表示（自己診断モニタ）されます。
 この場合は「故障・異常の見分け方と処置方法」（23～24ページ）をご覧ください。記号表示に合った必要な処置をしてください。

〈自己診断モニタ〉

| 表示 | 原因 | 処置方法 | 表示 | 原因 | 処置方法 | 表示 | 原因 | 処置方法 |
|-------|-----------|------|----|-------------|------|------|----------------|------|
| E1 | 途中消火 | ① | EB | 疑似火炎 | ① | P1 | ポット予熱不足 | ② |
| E2 | 不着火 | | ER | 燃焼用送風機異常検出 | | P2 | ポット温度低下 | |
| E3 | 対震作動 | | EC | ルームサーモ短絡 | | P3 | ポット異常過熱 | |
| E4 | 過熱防止装置作動 | | ED | 対流用送風機異常検出 | | HE | 不完全燃焼防止装置検知部異常 | ③ |
| E5 | 排気管抜け検知作動 | | EF | 空気サーミスタ温度異常 | | HC点滅 | 不完全燃焼防止装置作動 | |
| E6 | ルームサーモ断線 | | EH | 表示サーミスタ温度異常 | | HH点滅 | 連続不完全燃焼通知機能作動 | |
| E7・E9 | 停電 | | EO | 基板温度異常 | | HH点灯 | 再点火防止機能作動 | ④ |

■解除方法

- ① 運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
- ② お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
- ③ 直ちに部屋の換気を十分にして、運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
- ④ 直ちに部屋の換気を十分にお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

| 表示 | 表示理由・処置方法 |
|----|--|
| BB | 点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が作動しました。 下記の「■BB表示 点検時期お知らせ機能について」を参照して、点検（有料）を依頼してください。 |

お願い

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

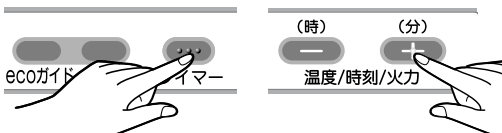
■BB表示 点検時期お知らせ機能について

- 本製品には点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が搭載されています。
- ストープの使用時間が設計標準使用期間8年相当（20,000時間）になったら、表示部にBBを表示して点検時期をお知らせします。
- 経年劣化による重大事故を防止するために、忘れずに法定点検（有料）を依頼してください。詳しくは取扱説明書と同封されているちらし「お客様へ 大切なお知らせです。必ずお読みください。」をご覧ください。
- 弊社 点検受付窓口（TEL0120-665-785）に連絡してください。点検のご案内をさせていただきます。
 ・受付時間9：00～17：00（土・日・祝日、夏期休暇・年末年始など弊社の休日を除く）
- 故障ではありませんのでご使用できます。

ご注意

- 使用状況によっては点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）による点検時期お知らせ表示が設計標準使用期間8年より早く表示することがあります。
- 点検後は使用時間が3年相当（7,500時間）の使用期間ごとにBBを表示して、点検時期をお知らせします。
 安全に製品を使用していただくため、BBを表示した場合は、法定点検に準じた点検（有料）を受けることをおすすめします。
- 点検を受けていただくまでの間、表示部のBBを表示しないようにできます。弊社 点検受付窓口にて連絡してから次のように操作してください。

1. 運転ボタンを押して「入」にしてください。
 ● 約3分ごとにBB表示が10秒間点滅します。
2. 温度設定ボタンの「+」を押しながら「タイマーボタン」を5秒間押し続けてください。
 ● 表示部がBBから「-」に切り換わり、点検時期お知らせ表示を表示しなくなります。



- 点検を受けずにご使用になった場合、上記操作後1年相当（2,500時間）になると再度BBを表示します。

6. 安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検、処置を行ってください。すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点検操作をしなければ運転は停止したままです。また、すべての処置は必ず、ストーブが消火し本体温度が十分下がってから行ってください。

| 安全装置 | 原因・作動結果 | 処置方法 |
|--|---|---|
| 燃焼制御装置 点火安全装置 (フレームロッド) (E1表示・E2表示) (途中消火) (不着火) | <ul style="list-style-type: none"> ●途中消火をしたとき ●点火ミスをしたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタE1表示またはE2表示 ・ストーブの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ●油タンクの送油バルブが閉じられていないか確認してください。 ●ゴム製送油管につぶれや空気だまりがないか確認してください。 ●給排気筒トップが閉そくしていないか確認してください。 ●定油面器の安全装置が作動していないか確認してください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |
| 対震自動消火装置 (E3表示) | <ul style="list-style-type: none"> ●強い地震(震度約5以上)や衝撃を受けたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタE3表示 ・ストーブの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ●ストーブの周囲や給気ホース・排気管の外れ・油漏れなどの異常がないことを確認してから再点火してください。 (対震自動消火装置は作動後自動的にセットされます) |
| 過熱防止装置 (サーモスタット) 過熱防止サーモスタット (E4表示) | <ul style="list-style-type: none"> ●フィルタやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタE4表示 ・ストーブの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ●フィルタの掃除をしてください。(21ページ参照) ●ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |
| 停電安全装置 (E7表示・E9表示) (30秒以上) (5秒以上) (30秒未満) | <ul style="list-style-type: none"> ●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・通電後自己診断モニタE7表示またはE9表示 ・ストーブの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ●E7の場合、時計などのセットをし、点火操作をしてください。 ●E9の場合、通電後点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。 |
| 不完全燃焼防止装置 ●ガスセンサー (HC点滅表示) 連続不完全燃焼通知機能 (HH点滅表示) 再点火防止機能 (HH点灯表示) | <ul style="list-style-type: none"> ●排気が室内に漏れ不完全燃焼防止装置が働いたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタHC点滅表示 ・自動的に消火 <ul style="list-style-type: none"> ●不完全燃焼防止装置が連続して4回作動し「連続不完全燃焼通知機能」が働いたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタHH点滅表示 ・自動的に消火 <ul style="list-style-type: none"> ●さらに不完全燃焼防止装置(不完全燃焼通知機能)が連続して3回作動し、再点火防止機能が働いたとき  <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタHH点灯表示 ・自動的に消火 ・再点火できません。 | <ul style="list-style-type: none"> ●部屋の換気を十分にしてください。 ●排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ●部屋の換気を十分にしてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |

7. その他の装置

| 装置の名称 | 原因・作動結果 | 処置方法 |
|---|---|--|
| <p>排気管抜け検知装置 (E5表示)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 排気管の接続部が外れたとき ● 排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線したとき ● ストッパーリングが正しく取り付けられていないとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタE5表示 ・ ストープの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ● 給排気筒および排気管の接続部に、外れ・ゆるみがないか確認してください。 ● 排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、外れ・切れがないか確認してください。  <ul style="list-style-type: none"> ● ストッパーリングが正しく取り付けられているか確認してください。 ● お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |
| <p>燃焼用送風機異常 検出装置 (ER表示)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 回転数が異常に低下したとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタER表示 ・ ストープの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ● お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |
| <p>対流用送風機異常 検出装置 (Ed表示)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 回転数が異常に低下したとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタEd表示 ・ ストープの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ● お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |
| <p>異常温度検知装置 (表示サーミスタ) (EH表示)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● フィルタやストーブの前面がふさがったとき ● ストーブの前面に障害物などがあるとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断モニタEH表示 ・ ストープの運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ● フィルタの掃除をしてください。(21ページ参照) ● ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ● お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |
| <p>過電流防止装置 (表示部全消灯)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 内部配線のショートにより過電流が流れたとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止 | <ul style="list-style-type: none"> ● お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。 |

8. 日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ストーブが十分冷えてから必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



注意

- 故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。
- 定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）



注意

ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。

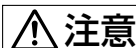
■ほこり（使用ごと）

- ストーブにほこりが付いた状態で運転をしないでください。
- ストーブ外観のほこりや汚れは、乾いたやわらかい布などできれいにふきとってください。
ベンジン・シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

- 置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、点検してください。
また、給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。
- 油漏れがある場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換のめやす（シーズンの初め）



注意

油タンクやゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上で使用ください。

ご注意

- ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。
屋外での使用は禁止されています。
- ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。
ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。
交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

- 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検してください。
油タンク内の水抜きおよび掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■給気ホース・排気管の点検（シーズン初め・適時）

- 給気ホース・排気管の接続部が外れていないか点検してください。
- 給気ホースが排気管にあたっていないか点検してください。

■結露水の処理（適時）

（お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて依頼してください。）

- 給排気筒トップより結露水がたれることがありますが異常ではありません。
- 排気管に結露水がたまった場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて点検を依頼してください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■ 給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（使用ごと）

⚠ 警告 給排気筒（管・ホース）が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが漏れて、危険です。

⚠ 警告 積雪が多いときには、給排気筒トップの周囲が雪でふさがれていないことを確認してください。

- 除雪は、給排気筒トップの周囲を常に30cm以上あけて、風がよどまないようにしてください。
- 積雪や屋根から落ちた雪やつららにより、給排気筒トップがふさがれると燃焼不良の原因になります。閉そくすると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

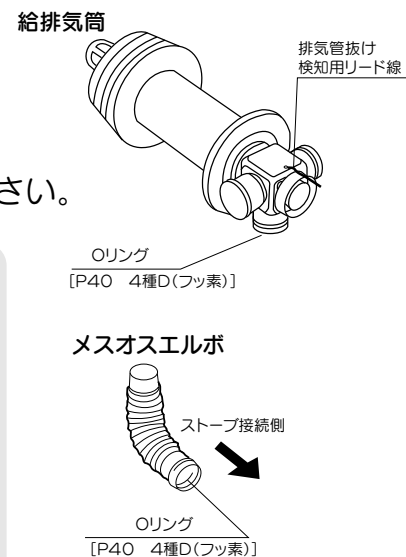
- 給排気筒およびトップの周囲に障害物が置かれていないか、ときどき点検し、障害物が置いてある場合は、移動してください。障害物が置いてあると排ガスを給気しやすくなり不完全燃焼や、運転が停止する原因になります。

■ 給排気筒接続部のゆるみおよびトップの周囲の点検（1シーズン1～2回）

- 給排気筒がつまると、不完全燃焼をおこします。シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。
- 給排気筒および排気管の接続部が外れたり、排気管抜け検知リード線が外れたり、断線していないか点検してください。

● 給排気筒を一度取り外して、再び取り付けるときは、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。破損していた場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて交換を依頼してください。

- 掃除するときなどは給排気筒トップにホースなどで直接水をかけないでください。ストーブ内に水が入ると故障の原因になります。



■ 定油面器のストレーナの掃除と水抜き（1シーズン1～2回）

お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて依頼してください。

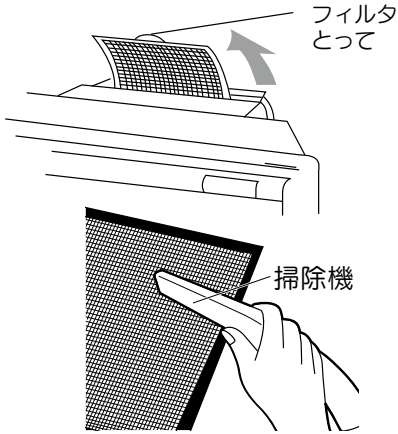
- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。水やごみがたまると灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなる場合や灯油が漏れるおそれがあります。1シーズンに1～2回（シーズン初めなど）には、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にて掃除・点検を依頼してください。

8. 日常の点検・手入れ

■対流用送風機のフィルタの掃除（週に1回以上）

- フィルタがごみやほこりで目づまりすると送風力が弱くなり排気温度上昇やストーブの表面温度が上昇する原因になります。〔過熱防止装置または表示サーミスタの働きで運転が停止する場合があります。〕

運転が停止し、対流用送風機が止まっていることを確認してから次の要領でストーブ裏面のフィルタの掃除を行ってください。



- 1.左図のようにフィルタのとってをつまんで矢印のようにフィルタを上を引き出し、ストーブ背面から取り外してください。
- 2.フィルタに付着したほこりを掃除機で吸い取ってください。
- 3.掃除が終わったら、もとどおりに取り付けてください。

⚠ 注意 フィルタを外したまま運転しないでください。

対流用送風機のフィルタを外した状態で運転すると、カーテンなどを巻きこんで火災になるおそれがあります。また手などをふれるとけがをするおそれがあります。

■地震などの災害が発生したときの点検について

- 地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
 - 給排気筒まわりの外れ、漏れの確認
 - ストーブの損傷点検
 - 灯油配管からの漏れ確認
- 点検で異常が見つかった場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

9. 定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者〔一般財団法人日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店にご相談ください。

愛情点検



長年ご使用の密閉式石油ストーブの点検をぜひ！

こんな症状はありませんか

- 油漏れがする。
- 強い臭いがする。
- 運転中に異常な音がする。
- その他の異常や故障がある。

ご使用中止

故障や事故の防止のため必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。
点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

10. 部品交換のしかた

■ 部品交換のときの注意

ご注意

不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は コロナ純正部品 とご指定ください。

●コロナ純正でない部品を使用の場合には、本体の機能が損なわれたり、事故や故障の原因となります。また、保証期間内であっても本体の保証が受けられません。

消耗・劣化しやすい部品

| 項目 | 内容 |
|-----------------------|---|
| 使用期間により交換が必要な部品 | パッキン類およびOリング（メンテナンス時分解した場合は必ず交換が必要です。）・点火プラグ・フレームロッド・排気管接続用Oリング〔P40 4種D（フッ素）〕 |
| 環境により劣化しやすい部品 | 給排気筒関係部品・各種制御基板・燃焼用送風機・対流用送風機 ガスセンサー・ゴム製送油管・イグナイタ |
| 変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品 | フレームロッド・気化器・電磁ポンプ・定油面器 |

11. 保管（長期間使用しない場合）

シーズン終了時などの長期間使用しないときは、日常の点検・手入れの項（19～21ページ）を参照し、次の要領で保管してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。

△注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

2. 油タンクの送油バルブを閉じてください。

3. フィルタの掃除をしてください。（21ページ参照）

4. 本体のごみやほこりを取ってください。

●掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

5. しめらせた布で本体の汚れを落としてから、からぶきしてください。

●ベンジン、シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。
塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

6. ストープは据付けたまま保管してください。

●どうしても取り外して保管されるときは、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。
●次シーズンに据付けるときには、必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

12.故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

| 現 象 | | 説 明 |
|---------|---|--|
| 点火時・消火時 | 初めて使用するときやシーズンの初めに煙やにおいがでる。 | 耐熱塗料やほこりが焼けるためです。しばらく窓をあけて換気をしてください。 |
| | すぐに点火しない。 | 予熱点火方式のため予熱時間が約2分程度必要です。(予熱時間は室温により多少変化します。) |
| | 1回で着火しない。(放電音が繰り返し鳴る) | 異常ではありません。 |
| | 燃焼開始時、火力調節時および消火時に「ピチピチ」や「カンカン」という音がする。 | 本体内部が熱により膨張、収縮するためです。 |
| | 運転開始時、「カッチカッチ」という音がする。 | 製品の機能上(リレー音)であり異常ではありません。 |
| | 「ブーン」という音がする。 | モータの運転音で異常ではありません。 |
| 燃焼時 | 青炎の中に黄色い炎(赤火)が混じる炎の一部が揺ぐ | 異常ではありません。 |
| | 給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。 | 外気温が低くなると、排気ガスに含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。 |
| | 灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。 | 異常ではありません。 |

■使用中に異常があったら、次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

| 原因 | 現 象 | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------|---------------|--------------|------------------|-------------------|--------------------------|--------------|----------------|---------------------|------------------------|---------------------|-----------------------|-------------------|--|
| | E1 (途中消火) | E2 (点火しない) | E3 (対震作動) | E4 (過熱防止装置作動) | E5 (排気管抜け検知作動) | E7 (停電) E9 (停電) | E8 (疑似火炎) | E0 (基板温度異常) | EH (表示サーミスタ温度異常) | HE (不完全燃焼防止装置検知部異常) | HC (不完全燃焼防止装置作動) | HH (連続不完全燃焼通知機能作動) | HH (再点火防止機能作動) | |
| 電源プラグをコンセントに差し込んでいない | | | | | | | | | | | | | | |
| 強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 送油バルブが閉じている | ● | ● | | | | | | | | | | | | |
| 定油面器の安全装置が作動している | ● | ● | | | | | | | | | | | | |
| ゴム製送油管に空気だまりがある | ● | ● | | | | | | | | | | | | |
| ゴム製送油管が折れていて、灯油が流れにくい | ● | ● | | | | | | | | | | | | |
| 定油面器に水、ごみが入っている | ● | ● | | | | | | | | | | | | |
| 給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる | | | | | | | | | | | | | | |
| 対流用送風機のフィルタにほこりがたまった | | | | ● | | | | ● | ● | | | | | |
| 給排気筒の工事が不適当なため排気ガスを吸い込んでいる | ● | | | | | | | | | | | | | |
| ルームサーモ取付け位置が悪い | | | | | | | | | | | | | | |
| 油漏れがある | | | | | | | | | | | | | | |
| 給排気筒接続部が外れている。 排気管抜け検知用リード線端子接続部がゆるんでいる | | | | | ● | | | | | | | | | |
| フレームロッドにすすが多量に付着した | ● | | | | | | ● | | | | | | | |
| 長時間停電があった(30秒以上-E7表示) | | | | | | ● | | | | | | | | |
| 停電があった(5秒以上30秒未満-E9表示) | | | | | | ● | | | | | | | | |
| 給排気筒トップ先端がおおわれている | ● | ● | | | | | | | | | | | | |
| 電源電圧(AC100V)が低くなっている | | | | | | | | | | | | | | |
| 手動運転になっている | | | | | | | | | | | | | | |
| 標高調整・延長調整がされていない | | | | | | | | | | | | | | |
| 不完全燃焼防止装置が故障している | | | | | | | | | | ● | | | | |
| 室内に排気ガスが漏れた | | | | | | | | | | | ● | ● | ● | |
| バックアップ用電池の寿命 | | | | | | | | | | | | | | |

12. 故障・異常の見分け方と処置方法

| 現象 | 説明 |
|---|--|
| タイマー運転中に表示部が暗い。 | 異常ではありません。 |
| 停電したときの再通電直後（ E7 ）または E9 表示）点火操作をすると、 E4 E4 表示が出ることもある。 | 停電によりストーブの温度が一時的に上昇するため、異常ではありません。4～5分冷却した後に、点火操作してください。 |
| 放熱器の中央部が「色あいが変わって見える」、「白っぽくなって見える」場合がある。 | 使用している特殊遠赤外線塗料は、部屋の明るさや照明等の光に反射して色あいが変わります。異常ではありません。 |
| eco（エコ）運転中に消火する。（「eco」表示が点灯している。） | 室温調節のため消火しました。11ページの「eco（エコ運転）」を参照してください。 |
| 表示部に B8 表示される。点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）作動 | ストーブ点検時期になりました。16ページの「 B8 表示点検時期お知らせ機能について」を参照してください。 |
| 消火後、送風が停止してから「カチッ」や「ブーン」という音がある。 | 『バーナクリーニング機能』の運転音です。（9ページ「消火順序」参照）異常ではありません。 |

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

| 現象 | 説明 |
|--------------|-----------------------|
| 置台に灯油が漏れている。 | ゴム製送油管の締付バンドが締まっていない。 |

※表示部に自己診断モニタが表示されます。

| P1P2 (ポット予熱不足) | P2 (ポット温度低下) | 音をたてて燃える | 灯油のにおいがする | 爆発的な燃焼をする | 電源が入らない | 室温が低いのに火が大きくなる | 炎が大きくなる | 黒煙を出して燃える | 電源プラグを差し直す時時刻表示がと表示する | 処置方法 | |
|-------------------|-----------------|----------|-----------|-----------|---------|----------------|---------|-----------|-----------------------|------|--|
| | | | | | | | | | | ● | ● |
| | | | | | ● | | | | | | コンセントに確実に差し込む |
| | | | | | | | | | | | ストーブの周囲や給気ホース・排気管の外れ・油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をする |
| | | | | | | | | | | | 送油バルブを開く |
| | | | | | | | | | | | 定油面器リセットボタンを押す |
| | | | | | | | ● | | | | 空気抜きをする（7ページ参照） |
| | | | | | | | ● | | | | ゴム製送油管の折れを直す |
| | | | | | | | ● | | | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する |
| | | | | | | | | ● | | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する |
| | | | | | | | | | | | フィルタのほこりを掃除機などで掃除する |
| | | ● | ● | ● | | | | | | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する |
| | | | | | | ● | | | | | 適正な位置に取り付け直す |
| | | | ● | | | | | | | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する |
| | | | | | | | | | | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する |
| | | | | | | | | | | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する |
| | | | | | | | | | | | 設定室温、時刻などをセットしてから点火操作をする |
| | | | | | | | | | | | 再度点火操作をする |
| | | ● | | | | | | | | ● | おおっているものを取り除く |
| ● | ● | | | | | | | | | | △注意 「電気配線の確認」(8ページ参照)の内容を点検する |
| | | | | | | ● | | | | | 自動運転に切り換える |
| | | ● | | | | | | | | | 工事説明書に従い調整を行ってください |
| | | | | | | | | | | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する |
| | | | | | | | | | | | 直ちに部屋の換気をする。 「不完全燃焼防止装置」(17ページ参照)の内容を点検する |
| | | | | | | | | | ● | | お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。電池がなくなってもバックアップ機能がはたらかないだけで、現在時刻を合わせれば通常どおり使用できます。 |

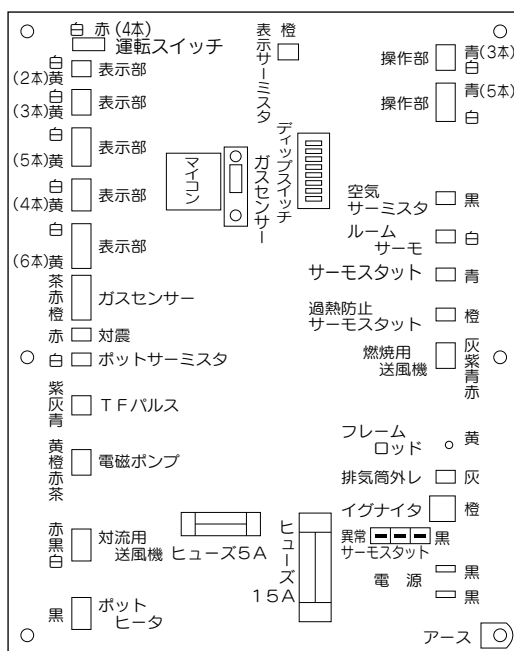
13.仕 様

仕 様

| | | |
|-------------------|--|---|
| 型 式 の 呼 び | FF-AG6820H (基本型式 FF-AG6813H) | |
| 種 類 | 気化式・強制給排気形・強制対流形 | |
| 点 火 方 式 | 電気点火式 | |
| 使 用 燃 料 | 灯油 (JIS 1号灯油) | |
| 燃 焼 状 態 | 最 大 | 最 小 |
| 燃 料 消 費 量 | 7.79kW (0.757 L/h) | 2.26kW (0.220 L/h) |
| 発 熱 量 | 28,040 kJ/h | 8,150 kJ/h |
| 熱 効 率 | 87.0 % | 87.5 % |
| 暖 房 出 力 | 6.78 kW | 1.98 kW |
| 暖房のめやす | 温暖地 | 木 造 29.5m ² (18畳) まで コンクリート 39.5m ² (24畳) まで |
| | 寒冷地 | 木 造 29.5m ² (18畳) まで コンクリート 46.0m ² (28畳) まで |
| 外 形 寸 法 | 高さ548mm 幅802mm 奥行284mm (置台含む) | |
| 質 量 | 25kg | |
| 電 源 電 圧 及 び 周 波 数 | 100V 50/60Hz | |
| 定 格 消 費 電 力 | 最大消費電力 (点火時) 860/860W 燃焼時消費電力 34/39W | |
| 待 機 時 消 費 電 力 | 1.0W | |
| 給排気筒の型式の呼び | QU40-3 | |
| 給排気筒の呼び径 | D40 | |
| 給排気筒の壁貫通部の孔径 | φ75mm | |
| 排 気 温 度 | 260℃以下 | |
| 電 流 ヒ ュ ー ズ | 5A・15A | |
| 安 全 装 置 | 対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・不完全燃焼防止装置・停電安全装置・過熱防止装置 | |
| そ の 他 の 装 置 | 過電流防止装置・排気管抜け検知装置・異常温度検知装置 燃焼用送風機異常検出装置・対流用送風機異常検出装置 | |
| 付 属 品 | 給排気筒セット1組・給気ホース1個・前面ガード1個・本体固定金具B1個 ゴム製送油管(1m)1本・ゴム製送油管締付バンド2個・スリーブ1個 取扱説明書・工事説明書・所有者票 | |

備考) 暖房のめやすは、一般社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板 端子配置図



14.アフターサービス

■保証について

- このコロナ密閉式石油ストーブには保証書がついています。(裏表紙に印刷されています。)保証書は、必ず「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買いあげ日から3年間です。
- 次のような原因による故障および、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
 - 変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
 - 誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」(23・24ページ)の項に従ってお調べください。直らないときは、ご使用中を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ①品名 ②型式の呼び ③お買いあげ日 ④故障状況(できるだけ具体的に) ⑤ご住所・お名前・電話番号
 - 品名と型式はストーブに向かって右側面に表示してあります。
- 修理に際しては、保証書をご提示ください。保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間

- 石油ストーブの補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の保有期間は製造打ち切り後7年です。

15. 据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

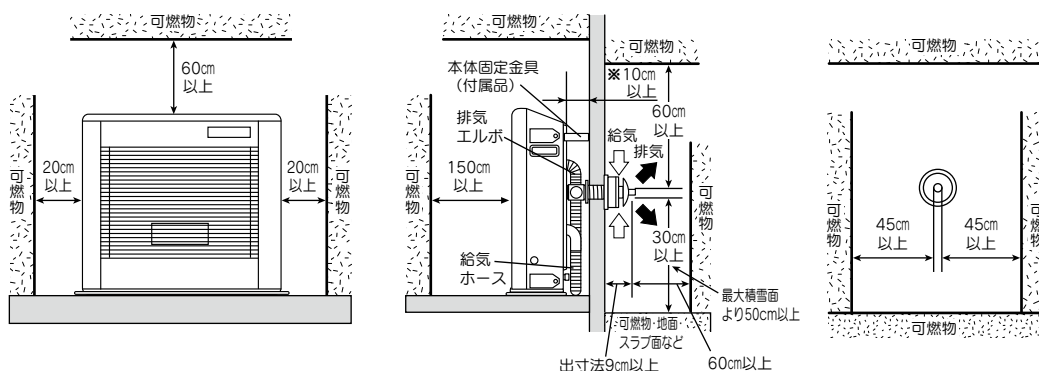
据付けや移設工事は、販売店または据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」をお読みになり、販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

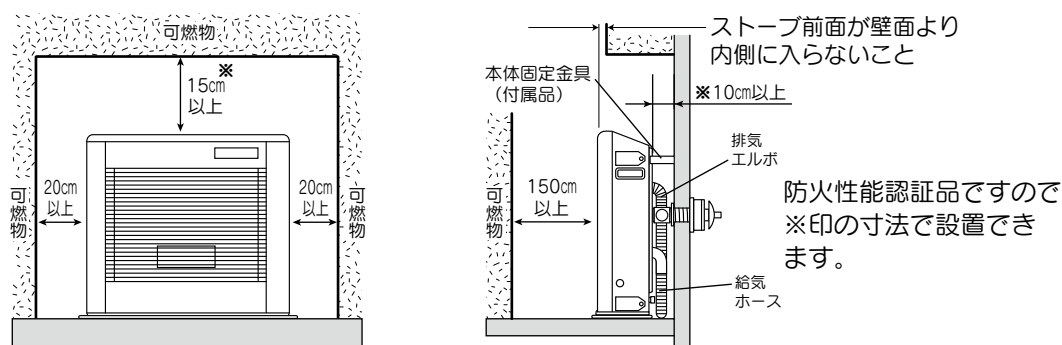
標準据付け例

ストーブの据付けは下図を満足させる位置に取り付けてください。



- 側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
- 前方に扉や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
- 給排気筒下面は地面から30cm以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。
- 雪の多い地方では、最高積雪面より50cm以上離れる場所に、給排気筒を取り付けてください。

[マントルピースなどに設置する場合のストーブ周囲寸法]



ご注意

- テレビやラジオから1m以上離してください。
- 点検・手入れのためストーブ左右の離隔距離は、20cm以上にしてください。
- 加湿器を使用している部屋など湿気やほこりの多い場所で使用すると表示部の内部がくもる場合があります。
- 熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがあります。
- 木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電氣的絶縁をしてください。
- 壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらぬ場所を選んでください。
- 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も離隔距離をとってください。

給排気筒を延長する場合の注意

- 給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。
- 標高1300m～1500mで使用する場合は、1.5m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

- 給排気筒トップが雪でふさがれない場所に設置してください。
落雪により給排気筒トップがふさがれたり破損するおそれのある場所には設置しないでください。
また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで異常燃焼を起こすことがあります。

据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

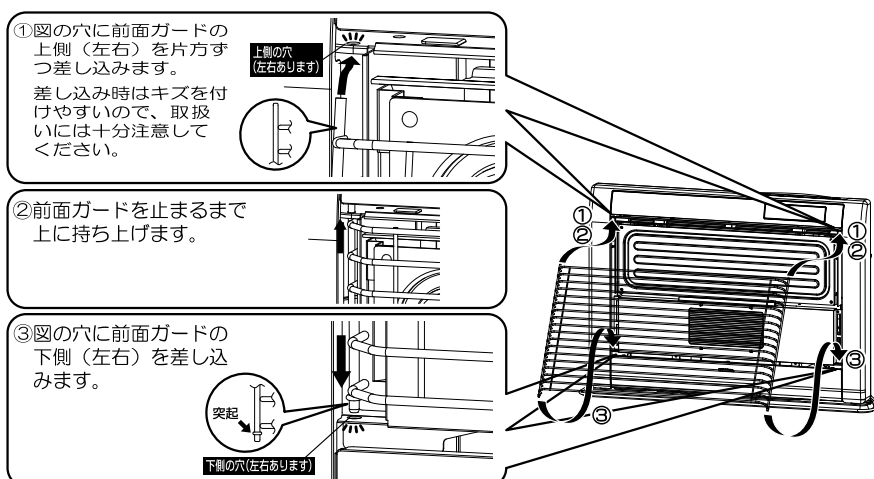
■ 前面ガードの取付方法

- ストープ設置の際は必ず同梱の前面ガードを正しく取付けてください。
- 燃焼中や消火直後はストーブ前面が高温となり、やけどのおそれがあります。前面ガードは必ず取付けてください。

〈取付け方法〉

- 取付けの際はストーブや前面ガードにキズ等を付けないよう、取扱いには十分注意してください。

■ 前面ガードは下図のように取付けてください。



試運転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ず行ってください。

■ 運転準備

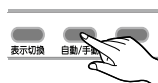
⚠️ 注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 現在時刻を確認してください。
現在時刻がずれている場合は、「現在時刻の合わせ方」(12ページ)を参照し、合わせてください。
- 油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。「燃料切れの注意と空気抜きの方法」(7ページ)を参照してください。
- 送油経路やストーブより油漏れがないか確認してください。
- 前面ガードが取付けてあることを確認してください。
- 定油面器をセットしてください。「安全装置のセット、取扱い上の注意」(8ページ)を参照してください。

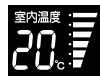
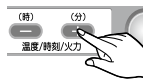
■ 運転(点火) ① 運転スイッチを押して「入」にしてください。



- “点火します”の音声と同時に「運転中」表示が点滅します。
- 「自動」表示になります。
- 点火操作から着火まで約2分です。点火すると「運転中」表示が点灯に変わり温風がでます。(室温によって着火までの時間が変わることがあります。)着火までに異常がないことを確認してください。



② 自動/手動ボタンを押して「自動」表示から「手動」表示に切り換えてください。



③ 火力設定ボタン「+」「-」を押してエコサイン(燃烧火力表示)が増減し、火力が変わることと炎の状態を確認してください。(各火力で1分以上確認してください。)

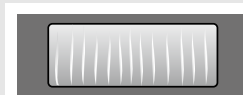
- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎がまじっても異常ではありません。
- 正常運転のめやすとして「12.故障・異常の見分け方と処置方法」(23ページ~24ページ)のような現象がないことを確認してください。

④ 自動/手動ボタンを押して自動運転に戻してください。

■ 炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。

- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎が混じっても異常ではありません。
- 細かい(霧状の)水滴やホコリを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがあります。異常ではありません。



青い炎の中に黄色い炎が混じる



全体的にオレンジの炎 (元は青色の炎)

■ 消火の手順



運転スイッチを押して「切」にしてください。

- “消火します”の音声と同時に表示部は時刻表示のみになります。
- 消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機・対流用送風機が停止し、表示部が消灯します。

お願い

- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

⚠️ 注意 初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れないでください。

- お部屋の窓(給排気筒トップ取付け場所より離れた所)を少し開け、半日から1日程度「大火力」運転をしてください。

お客様ご相談窓口



お客様ご相談窓口

修理サービスや製品についてのご相談は型式名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記の窓口にご依頼ください

電話番号やアドレスは変更する場合がありますのでご了承ください。

コロナサービスセンター（全国共通番号 365日24時間受付）

TEL フリーダイヤル  **0120-919-302**

携帯電話 PHS ナビダイヤル  **0570-550-992**

ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります。

修理・アフターサービスに関するお問い合わせ

<https://www.corona.co.jp/support/service/>



- 365日24時間修理依頼ができます。
- 部品保有年限が経過している製品は受付しないこともあります。
- 右記QRコードからアクセスできます。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



コロナ公式オンラインストア

お客様ご自身で簡単に交換いただける純正部品、別売部材を販売しております。製品内部の部品や交換の際に資格や技術が必要となる部品などは販売しておりません。

補修用性能部品の保有期間が過ぎている部品は、取り扱いを終了している場合があります。下記アドレスページ内の対応型式をよくご確認ください。



CORONA 公式オンラインストア

コロナストア

<https://ec.coronaweb.com/shop/>

(コロナ公式ホームページからもアクセスできます)



株式会社 **コロナ**

〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7

TEL(0256) 32-2111 〈代表〉

ホームページ <https://www.corona.co.jp/>

コロナ 石油ストーブ保証書

| | | |
|------|-----------------|---|
| 型式 | FF-AG6820H | |
| ★お客様 | お名前 | 様 |
| | ご住所 〒() | |
| | 電話 () - | |

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買いあげの日から左記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。
●ご販売店様へ
お買いあげ日、貴店名、住所、電話番号をご記入の上(★印欄に記入のない場合は、無効となります)、本書をお客様へお渡しください。

| | |
|--------------------|-------|
| ★お買いあげ日 | 年 月 日 |
| 保証期間 (お買いあげ日より) | 対象部分 |
| | 期間 |

本 体
見 本
3 年

| | |
|------|-----------------|
| ★販売店 | 住所・店名 |
| | 電話 () - |

●お客様へお願い
お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入ください。
販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

《無料修理規定》

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間中に故障した場合には、お買いあげ販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に依頼してください。なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
また、本品を直接送付される場合の送料は、お客様の負担となります。
- ご転居の場合は事前にお買いあげ販売店にご相談ください。
- ご事情により、本保証書に記入してあるお買いあげ販売店に修理をご依頼できない場合には、お客様ご相談窓口（本書30ページに記載）にお問合せください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
(イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
(ロ) 取扱説明書、本体表示等によらないで使用された場合、または適切な点検・手入れを行わなかったことにより発生した不具合
(ハ) お買いあげ後の取付場所の移動、輸送、落下等による故障および損傷
(ニ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害および、変質灯油、不純灯油、異質油(灯油以外の油又は混入)による故障および損傷
(ホ) 業務用としての使用、車両、船舶への搭載など一般家庭用以外に使用された場合の故障および損傷
(ヘ) 本書にお買いあげ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売などでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がない場合
(ト) 据付け工事の不備による故障
(チ) 本書の提示がない場合
(リ) 点検整備、および消耗品(リング、各種パッキン類、ゴム製送油管)の交換をされる場合
(ヌ) 定期点検の費用
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid in Japan only.
- 本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

| |
|------|
| 修理メモ |
|------|

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
従ってこの保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口(本書30ページに記載)にお問合せください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書(本書26ページに記載)をご覧ください。
※アフターサービスや製品についてのお問い合わせは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口(本書30ページに記載)にお問い合わせください。

株式会社 **コロナ**

〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7
TEL(0256) 32-2111 〈代表〉
ホームページ <https://www.corona.co.jp/>